

民生文教 常任委員会

委員長 新井賢次

副委員長 羽鳥光博

委員 備前島久仁子・三友美恵子・宇津木治宣・笠原則孝

「奇跡の自治体・長泉町で見た」 子育て支援事業のヒント



こども交流センター「パルながいずみ」

視察研修…子育て支援の先進地「静岡県長泉町」



平成29年開所の「こども交流センター パルながいずみ」は令和4年10月に来館者40万人を達成。子育て支援センターと児童館の機能を併せ持ち、入退所システム、ファミリーサポート・センター、育児相談、子育てコンシェルジュ等を整備。広々としたプレイホールは子供の成長過程や年齢に応じたゾーンに分けられ、多彩な遊びや体験ができる（写真左・右上）。右下は長泉町庁舎前にて。

**出生率・財政力ともに県内トップ
40年以上発展を続ける長泉町**

長泉町は、静岡県の東部、伊豆半島の基部に位置し、三島市、沼津市、清水町、裾野市に接している。昭和36年に1万6635人であった人口が年々増加しており、令和5年には4万3231人（推計人口）になろうとしている。県内屈指の人口増加率と合計特殊出生率を誇り、今後とも人口増加が見込まれ、全国でも数少ない人口減少を克服した「奇跡の自治体」として知られる。さらに企業誘致に成功した町としても知られ、普通交付税不交付団体の財政力豊かな町であり、特に子供にも優しい地域として、子育て支援の手厚さが魅力の町となっている。

令和5年度の主な事業として、「未来っこ0・3・6歳児応援事業」、「長泉町定住のための新幹線通学支援補助金」、「長泉町未来人定住応援事業奨励金」等を行っている。

合計特殊出生率は静岡県内トップ（令和4年度1・54）、財政力指数も県内トップ（令和4年度1・18）である。40年以上にわたって普通交付税不交付団体として発展を続けており、その背景

当町でも参考にしたい「プラス要因を生かす視点」

玉村町では、令和5年度の重点施策の中で、人口減少社会への適応の一つとして「子育て世代への支援」を掲げている。

今回視察した長泉町では、様々なプラス要因を生かして子育て支援事業に取り組んでいた。令和3年度に行った住民意識調査によると、18歳未満の子供を持つ保護者の85・6%が「子育ての環境や支援が充実していることに満足している」と答えたとす。

当町で令和6年度開設に向けて現在進めている、妊産婦、子育て世帯、子供に対して一体的に相談支援を行う「こども家庭センター」への研究・準備に、今回の事例も参考にしたい。その上で、ないものねだりではなく、今あるものを生かしつつ、玉村町独自のより実効性のある充実した施設にすることを目指し、しっかりと準備が進められることを期待する。

視察研修…新東部浄水場を建設した「長野県山ノ内町」



山ノ内町の「新東部浄水場」は令和2年に建設工事を着手。令和4年12月竣工予定が、半導体不足による計器類の納入遅れの影響もあり、令和5年10月完成予定とのこと。視察した8月時、すでに試験的な配水が開始されていた。現地では不純物の除去や水の濁りをなくす「膜ろ過方式」等の説明を受けた（写真右・左下）。左上は山ノ内町役場前。

**おいしい水をいつでも
安定供給めざす**

山ノ内町で見た・聞いた
水にまつわる苦労と課題

今回視察したのは、当町と友好交流都市の関係にある山ノ内町。長野県北東部に位置し、志賀高原ユネスコエコパーク・上信越高原国立公園の中心にあって、周囲を2000メートル級の山々に囲まれた盆地であり、面積の88%が山林原野で占められている。

町の名称どおり、山に囲まれた町のため潤沢に水が流れていると思われがちだが、飲料水の確保は難しいという。町内の資源については、表流水や湧き水など12か所から取水しているが、不安定な取水環境や、雨や雪解けなどによる水の濁りなどにより、職員は常に対応に追われる状況にある。

視察した新東部浄水場と平成29年に竣工した南部浄水場は新たに、病原虫等の不純物の除去や水の濁りをなくす「膜ろ過方式」を採用したという。きれいでおいしい水を住民にも観光客にも供給できることや、職員負担の緩和も期待できるとのことだ。

一方、町内の浄水場をはじめとする各施設においては老朽化が進み、計画的な改修や更新が求

められているが、事業費も莫大にかかるため、思うように進められない状況にもあるそう。

**段階的な水道料金値上げへ
「議会が町に望むこと」**

山ノ内町は水道料金が県内で5番目に高いが、浄水場建設費用のこともあり、料金改定（値上げ）をしたいという。しかし町内には宿泊施設が数多くあり、簡単には値上げには踏み切れない事情もあるようだ。

当町においては、地下水と県央第二水道を混合して配水しているため、病原虫等の不純物が少ない。そのため「急速ろ過方式」を採用している（山ノ内町が採用している「膜ろ過方式」は、本施設工事費約25億円のうち、5億円は交付金、残りの20億円は起債によること）。

玉村町では、水道料金の改定を予定している。段階的に値上げをしていかなければならない時期となっているが、町民に対しても丁寧かつ納得のできる説明責任を果たし、将来にわたって安心かつ安定した水道事業が継続できるよう期待するところである。

総務 経済 常任委員会

委員長 浅見武志

副委員長 小林一幸

委員 堀越真由子・松本幸喜・月田均・高橋茂樹

「おいしい水をいつでも」 安定供給めざす 山ノ内町

友好交流都市